

「ともに祈り ともに生きる力を」



鳴らす供養の 音の 証の 音よ 犠 牲 者 に 捧 ぐ 鈴 の 声



平成23年9月1日
第35号

発行 梅花流師範・詠範の会
会長 岩 館 祖 芳
題字 初代会長・故加藤信三師
編集者 (広報部) 亀谷 隆道

梅花流師範・詠範の会事務局
大仙市協和 太寧寺 伊藤道人
電話 (0188-96-2029)



しあわせを!! やすらぎを!!

秋田県梅花流師範・詠範の会 会長 岩 館 祖 芳

「ナムーホンシー、シャーカーニョーライー。
南無本師釈迦如来」

大地震発生から遠くないある日、余震の不安を抱きながら、被災地をお見舞いしました。

車窓からの風景は、テレビの映像そのままのガレキの山。おびただしい数の救援車両や工事関係車が、狭い国道を慌ただしく往きかう中、車内から、或いは道端に立ち読経、梅花を唱え、せめてものご供養を申し上げて参りました。心ばかりの気持ちをお渡しした時、沢山のボランティアの方にお会いしましたが、その中に曹洞宗青年会が、取り分け、秋田県曹洞宗青年会の方々が、不惜身命、長期に涉り、物心両面の被災者支援に当たって下さっておりました。それはそれは、頭の下がる思いでありましたし、心強さと安堵感を覚えました。

世の中は、持ちつ持たれつ 立つ身かな 人という字を見るにつけても
という歌があります。支え合い、助け合いこそ、人の世の姿」と漢字の
「人」が教えてくれます。今年、奉詠大会は『ともに祈り、ともに生
きる力を』との願いが込められております。お経の一文に「存者は福樂に
して寿極りなく、亡者は苦を離れて安養に生ず。」という一節があります。
直訳すれば「生きている人は、限りなく幸福が得られますよう。亡き人は
永遠に安らかでありますように。」と。無念の最後を迎えられた一万五千を
超える人々の冥福をお祈り申し上げると共に、被災を克服して復興に敢然
として立ち上がっている方々の幸福を心から願う日々でありたいものと思
います。それがまた、今大会の「ともに祈り、ともに生きる力を」願う心、
梅花を通しての実践につながるものと思えます。梅花は「仏様のみおしえ」
の実践活動です。信じ合い、支え合いの実践です。楽しさの分かち合い、
悲しさのいたわり合いです。無理のない、いやみのない、いとも自然な形
の「持ちつ持たれつ」と、わかっているのですが、本当に難しいですね。
さて、光陰矢よりも速やかなり。九月を迎えます。お互い様、どうぞお
体お大事に。梅花ますますのご精進を!!

合 掌

東日本大震災支援活動

早くより支援物資を積んで現地に入られ活動している長谷寺様に、その体験を寄せていただきました。

被災地へ

由利本荘市 長谷寺住職

浅田高明

同行読者の皆様には日頃より大変お世話になっております。梅花流詠歌を始めてから早十四年が経ちました。その間沢山の方からお世話になり、貴重な経験をさせて頂きました。振り返ってみると本当に有り難く、ご縁を頂いた皆様に感謝の気持ちでいっぱいになります。何かやめてしまうような書き出しになってしまいましたが、何卒これからよろしく御願いたします。

さて、去る三月十一日に東日本大震災という未曾有の大災害が起きました。更には福島原子力発電所事故という、かつて日本が経験したことのない事故も起り、未だに被災地はもろろんのこと、日本全体が影響を受けております。まずは、被災された皆様に、心より御見舞い申し上げます、お亡くなりになった方々のご冥福を祈念すると共に被災され、未だ避難所や仮設住宅で過酷な生活を強いられている方々の心身の安寧と、一日も早い復興をお祈り申し上げます。三月十一日以降現在



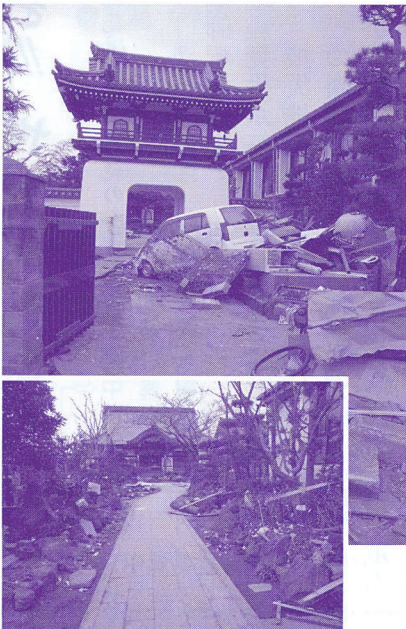
たが、当初は極端なガソリン不足であり、現地の情報も不足していましたから、簡単に行動に移す事が出来ませんでした。

宮城県石巻市に、梅花流師範養成所の同期であり、その後も懇意にして頂き、現在も同じ特派師範を勤めている友人がおります。徐々に電話が復旧し、震源地の近くそして津波が襲ったと思われる地域の友人に連絡がつき始めましたが、その友人には震災発生から五日ほどまったく連絡が取れず生死すらわかりませんでした。五日を過ぎた頃インターネット上で無事であるとの情報がやっと確認出来ましたが、しかし相変わらず電話も携帯も全く通じません。何とか連絡を取りたいと思っ

ておりました。

三月十九日先行して気仙沼市唐桑に入った方からの情報で、燃料さえ確保出来れば道路も大丈夫である。避難所で不足している物がありリストアップしてあると聞き、早速三月二十日に気仙沼に物資を運ぶこととなりました。その日は快晴。岩手の同安居に裏道を案内して貰いながら、唐桑に到着しました。どんなに悲惨な状況かと、こわごとと現地入りしたのですが、避難所の方々は意外にも明るく、少し驚いたのですが、よくよく話を聞くと、家を流され家族が未だ行方不明という方が沢山いらつしゃいました。生きるということにおいて、心の傷も大変な状況の中、皆さん力を合わせ頑張っている様子を見て驚いたと同時に人の強さに感動しました。

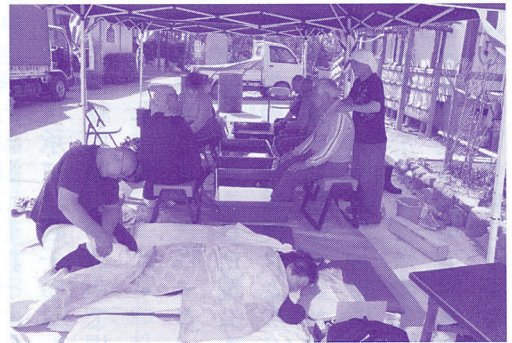
昼を過ぎた頃に唐桑を離れ、未だ状況がわからない石巻へ走ることを決意し一路石巻へ向かいましました。所々通行止めがあり、不慣れた土地ということもあり、迷いながら何とか石巻へ到着いたしました。石巻の市街はテレビで見たとおり悲惨な



状態で、この分だと友人のお寺も大変だろうと想像しながら目的地へ向かいました。そしてついに到着、おそろおそろ勝手口を開け、声を掛けてみると、友人の奥様が出てきてくれました。そして部屋の中から友人が。顔を見たときは涙が出そうになりました。中へ通して貰い、地震当日からの色々な話を聞きましたが、なんと答えていいのかわかりません。津波が来たときは庫裡の屋根に登り見ていたこと、津波が去ったあと、静寂の中夕日が綺麗だったこと。避難所になっている小学校とお寺を、季節外れの雪の中停電で真っ暗な道を腰まである水をかき分けながら、避難所で灯りを取るためのろうそくを持って何度も往復したこと、地震から四日間避難所で二千人近い避難者のお世話をして寺に帰れなかったこと。そして、なぜ自分は生きているんだろう、自分は生きていていいのと言ったときには本当に言葉がでませんでした。

その日は、時間が遅かったこともあり、二時間ほど滞在し、不足している物、必要と思われるものを聞き、明後日又来ると伝えお寺を離れました。

三月二十二日には、乗用車と軽トラック二台で、近隣のお寺の副住職さんと、どうしても現地へ行く



て何かしたいと言ってくれた、副住さんのお子さん二人を連れ再度石巻へ。お寺とその直ぐ前にある避難所に、満載した物資と長谷寺梅花講の皆さんと役員さんの奥様が作ってくれたおにぎりとカレーを届けました。子ども達二人も献身的に働いてくれました。

その後何度も足を運んだのですが、五月十六日から十八日にかけては、全国の梅花関係の友人を誘い、二泊三日で色々な活動をしました。十七日には震災物故者の御供養をお経を読みみんなで梅花流をお唱えし勤めさせて頂きました。勤めていた私たち僧侶も参列して頂いたご遺族の皆様も、皆涙をしながらの法要となりました。法要後、参列者からお話を聞くと「今まで悲しみ泣ける場所が無かった、そして余裕もなかった。法要に参加して本当によかった」との声を沢山頂戴致しました。

被災地に足を運び、活動をしたことで今まで以上に梅花を学んでよかったですと感じております。梅花で知り合った友人の所に、梅花を通して知り合った仲間と、様々な活動しながら被災地の方々とふれあい、その中で、梅花を唱えて御供養をし、梅花を唱える事によってご遺族の皆様と心を通じ一緒に泣くことが出来ました。又、梅花を学んでいなければ、今回のような活動をする事にもなら

なかったのではないかと思っております。梅花を学びつつ養った同行同修の心、何度も何度もお唱えした四摂法御和讃の教え、それらがあつてこの度の支援活動につながったと思います。

今後も、少しでも被災地の皆さんのお役に立てるよう、活動を続けて行く所存ですので、梅花講の皆様も、もし機会がありましたらその活動に参加・御協力して頂ければ有り難いと思えます。

末筆ですが、五月に三か寺で行いましたチャリティー講習会では沢山の講員様から御協力を賜りました。紙面をお借りしまして心から御礼を申し上げます。

梅花流チャリテイ講習会行われる

〜東日本大震災復興支援活動〜

去る五月下旬の三日間、県内の三つのお寺、東泉寺、長谷寺、龍泉寺で講習会が開催されました。これは東日本大震災の支援のために「何かできないか」という思いから各師範老師が「梅花の仲間のできることを考えて企画実行したものでした。」

『学びのつどいを支援のちからに』をテーマとしたこの講習会は受講費すべてを義援金として被災地に送るというチャリテイとしての講習会であり、三会場において約四百名の講員の皆さんが参加し協力しました。

各会場での半日に及ぶ無償の講習と梅花の祈りの心は浄信一現にして、遠く被災地へ浄財と共に届いたことでありましよう。

◎東泉寺、長谷寺、龍泉寺にて

総額二百三十七万八千円也。

ありがとうございました。

梅花のふるさと

〜詠讚歌の生まれた風景（その十三 孟蘭盆会御詠歌）〜

み霊たまを迎える 紅蓮せんべい秘話

孟蘭盆会御詠歌

子等の焚く迎火の

炎のさゆらぐはみたまの

母の来たまえるらし

作詞 高橋掬太郎

◇精霊棚の「コウレンせんべい」◇

お盆はご先祖たちの帰つて来る時。昔からこの時期は、精霊棚しょうりやなあるいは盆棚ぼんたなと呼ばれる特別の供物棚を、お墓や家の仏壇の前に設けてきました。

あの世からやって来るご先祖の乗り物に見立てて、キュウリの馬やナスの牛をこしらえ、ときにはハマナスやソウメン、コンブなどを棚の上にかけているところもあります。

そんな精霊棚の供物の中で、秋田県北部では、白くて長方形の薄焼きのせんべいをかけているのを見ることがあります。このせんべい、年中売っているところもありますが、多くの場合、お盆が近づくと、ハスの葉や花菓子など、お盆用品と一緒にに店先に並びはじめます。「コウレンせんべい」

「オコウレン」という名で知られるお盆の風物詩の一つです。（※北秋田地方の例です。全県的なものではないようです）

さて、このせんべい、じつは象潟の蛸満寺さまにゆかりの、古い由緒を持つものでした。そこには悲しい恋の物語が秘められていたのです。

◇紅蓮尼物語◇

コウレンの由来を説く物語は、宮城県みやぎけんの松島と、秋田県あきたけんの象潟せうがたにそれぞれ伝えられています。いくつかの伝承には若干の違いもあるようですが、ここには秋田県にかほ市で提供しているものをご紹介します。

時に元亨（一三二一〜一三二四）のこと、象潟の商人、森隼人もりはやとは西国三十三番観音参りの途中、松島の掃部かまと道連れとなりました。二人が国へ帰る頃には、森の娘タニと掃部の息子小太郎の縁組みの話が出来上がっていました。

森隼人が象潟へ帰ってそのことをタニに伝えたところ、タニはその縁を信じ、まだ見ぬ小太郎に心を引かれていきました。そのときタニは十八歳

だったといわれ、嫁入りの身支度を調え、はるばる山を越えて松島へ嫁いでいきました。

しかし、松島へ着いてみると、夫となるはずの小太郎はちよつとした病がもとで亡くなっていました。まわりの人たちは、また国に戻ってよき夫に嫁ぐようすすめたのですが、タニは「縁あって約束したからには、小太郎の妻であり掃部家の嫁である。小太郎の供養をしながら、小太郎の両親とともに暮らす」といって、どうしても帰ろうとしませんでした。タニはそれ以後、実の父母に使える様に婚家の親に孝養をつくしたといわれています。



松島・瑞巖寺そばの「比翼塚」
小太郎と紅蓮尼の名前を刻んだ碑がある



象潟・紺満寺境内の紅蓮尼碑

ます。

夕二は亡き夫が幼き日に植えたという梅の木に向かって、梅の花を見る小太郎を思っ悲しくなってしまうので、

『移し植えし花の主ははかなくに軒端の梅は咲かずともあれ』梅の木の主で本来は夫となるべき小太郎もないのに咲かないでくれと詠んだところ、翌年はもう花が咲きませんでした。

しかし、咲かなくなってしまうと、また寂しいので、今一度、

『咲けかしな今は主とながむべし軒端の梅のあらん限りは』もう一度咲かせてほしいと詠んだところ、また香り高い花をつけるようになったと

言います。現在、三聖堂の隣には、仲良く二人の名前を刻んだ石碑があります。

こうして幾年月が過ぎ、老父母の死を見とった後、夕二は円福寺（瑞巖寺）に入り、心月紅蓮の名をもらって尼僧となりました。そして生計の為に門前で長方形のせんべいを焼いて商いました（瑞巖寺の観音様に参詣する人たちがお供えした米を粉にして、煎餅を焼いて村の人々に施しをしたことが始まりとも言われています）。松島の人々はこのせんべいを「おこうれん」と呼び、今でもそのせんべいは残っています。おこうれんが長方形だったのは紅蓮尼が和歌を好んだため、短冊の形にしたものといわれています。

紅蓮は七十七歳まで生き、人々はこの貞節を末永く称えたのです。（にかほ市公式HPより）

◇みたまの帰り来るとき◇

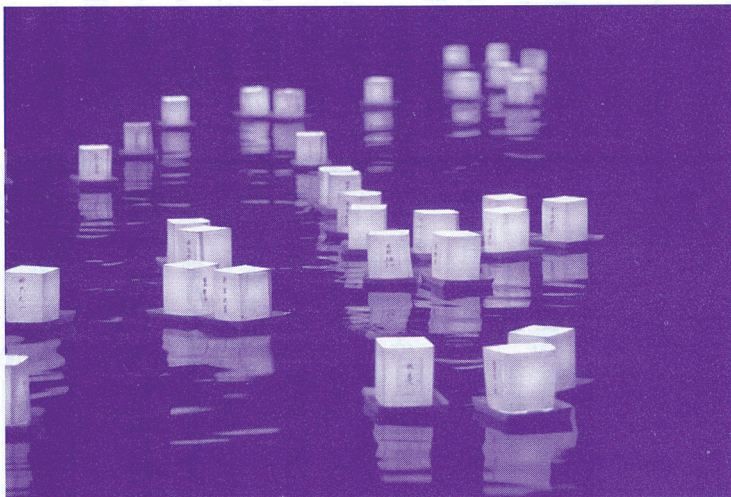
それではどうしてコウレンせんべいが、お盆の精霊棚に供えられるようになったのでしょうか？その答えを記しているものはあまりないようです。これはお盆が、特別な時期であるということに關係しているかもしれせん。お盆は年に一度、あの世の死者のたましいが、この世の家族のもとへ迎えられる時と信仰されています。

迎え火の灯火のゆらぎに、み霊となつた母親の存在を感じ取る。梅花流の『盂蘭盆会御詠歌』はそうした日本人の素朴な信仰を、詠じたものでした。死者の霊魂というと、ときには恐ろしく思う

こともあるかもしれませんが、お盆に迎える「みたま」という言葉には、誰しもなつかしく慕わしい思いを感じていることでしょう。

この世から遠く離れてしまった家族たちが、この期間だけとは、それぞれの実家の団らんを迎えられ、ともに饗応の時間を過ごすとき。それがお盆の持つている大切な意義の一つです。

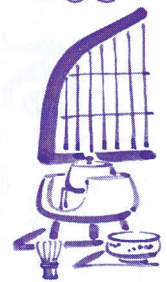
この世の縁浅く、共に夫婦として暮らすことになわなかった小太郎と夕二でしたが、この時期だけは二つの世の隔たりを越えて一緒に過ごさせてあげたい。そんな思いが精霊棚のコウレンせんべいには込められているような気がするので。



灯籠流し お盆を一緒に過ごした精霊たちをあの世へ送る

みんな！梅花やってみないか！

おらほの梅花講



山 寺 (とんじ) 住所 北秋田市木戸石
松 温 (しょうおん) 設立 昭和三十年
岩 樹 (がんじゅ) 講長 佐々木 徹明
 講員 八人

この度の東日本大震災犠牲者のご冥福を祈念して観音様の御前にて私達梅花講も追善供養御和讃をお唱えしました。

樹温寺梅花講は、昭和三十年から始まったそうです。それ以降、延々と続いているのだそうです。

私が梅花講に入ったのは、先輩達が一生涯懸命お祈りしている姿に感動し、私のような鈍い者は少しでも若いうちに梅花を勉強しようと思ったことです。私は早速、お寺の奥さんに私、梅花を習いたいのでよろしくお願ひしますという事で、経典一式を用意してもらい、大先輩達に混じって練習しました。最初は詠唱・所作につまづきながら、よく先輩達ができるものだなーと感心しながら悪戦苦闘の連続でした。



二十年来、月一回、新田寺の保坂先生に樹温寺まで来ていただいで練習しております。本当に感謝しております。

それに毎月二十九日は観音様の日ということで、当お寺の自慢の三十三観音像の奉られている観音堂で、当番の人を決めてお供え物を持ち寄り、三宝御和讃から始まって観世音菩薩御和讃・御詠歌まで拝みます。あとはその月に亡くなった人がいる

時は追善供養を捧せていただきませす。大会とかある時はその曲を練習したりしています。なぜか観音様のお堂でお唱えすると心が落ち着いて出来るような気がします。それは観音様が先に私達に手を合わせてくれているからです。そういう環境の中で出来ることを本当に有り難く思います。その練習が終わったからのお茶会が楽しいのです。昔の話つこに夢中になって晩御飯の準備に間に合わない位、笑ったりしながらたのしいひとときを過ごしております。

なお、集落の人のお葬式の時梅花講の人と集落の会葬の方々と一緒にとなつて、御詠歌をお唱えしてお見送りしております。

わが梅花講員は現在八名で、小人数ながらも頑張っております。講員募集中です。まだまだ練習不足ではありますが、楽しみながら唱え続けることで、一つずつ乗り越えて行きたいと思ひます。それとやはり思うことは、いろんな講習会に積極的に参加すること。そして、いつまでも梅花の歌声が響く、平和な世の中であつてほしいと、切に願う今日この頃です。

樹温寺梅花講員

佐藤孝子

テレホン梅花

011-873-7676 (ハナミナナムナム)

(毎週土曜日にテープが代わりませす)

平成二十三年

◆九月三日 紫雲 (高祖)

十日 紫雲 (太祖)

十七日 香華

二十四日 高清水

◆十月一日 達磨 (和)

八日 御授戒 (和)

十五日 総持二祖 (和)

二十二日 永光 (総持二祖)

二十九日 影向・伝光

◆十二月五日 妙鐘

十二日 花供養 (和)

十九日 供華

二十六日 明星

◆十二月三日 成道 (和)

十日 高嶺

十七日 月影

二十四日 同行 (和)

三十一日 道交

※ご意見ご要望等をお気軽に
お寄せ下さい。

〒010-0111
秋田市金足岩瀬字前山三
東泉寺 〇一八八七三二二六七五

県北奉詠大会開催報告

平成二十三年七月九日
能代市ニッ井町総合体育館

今大会は県北と中央県南に分れて開催することとなりました。それぞれ佐藤梅花主事の主導の元、県北大会のテーマとして掲げたことは「ともに祈り、ともに生きる力を」でありました。

東日本大震災で亡くなられた方のご冥福と被災された方の心の安寧と復興を祈りたい。梅花のお唱えを通して秋田より祈りを届けたい。その思いに県北より五十三ヶ寺、六百人余の講員さんが参集し「無常御和讃」にて追悼法要を致しました。

師範詠範の登壇奉詠では「精霊供養御和讃」をお唱えし、供養と祈りの心を参加者全員で合唱、捧げさせて頂きました。

また当日ご参加なられた中の梅花講中現役最高齢者として、鹿角市の萬養寺梅花講の酒井カツさん、御年九十六歳ということで宗務所長より慰労と感謝と激励の意にて表彰状がサプライズで贈られ大会は無事円成となりました。
※また、大会会場で募金して頂いた東日本大震災への義援金額は「十五万二千五百十二円」となり、SVA（曹洞宗のボランティア団体）に送らせて頂きました。ご協力ありがとうございました。

ちよっとぶじょほう ～梅花つれづれ～

「始めて良かった」「良かった！」

〇ンチは関係ない

由利本荘市 萬福寺住職

鷹 照 賢 裕



梅花というものを始めてからあつという間に四年が経ちました。梅花を始め

るきっかけは人さままでしようが、なんとなく始めてみたという方は多いのではないのでしょうか。サラリーマンを辞めてやることもなく、しかしやらなくてはいけない事はこなしつつ過ごしていたある日、長谷寺住職浅田高明さんから「由利本荘の師範会で梅花講習会やるから来てみる？」と言われ、前述の通り特段忙しくもなかったので、講習会に参加したのが始めの一步でしょうか。最初は法具もなく、経典をコピーして唱えるだけでしたが、独特の譜が難しく、こりゃく大変だということに気づくのも早かったです。もともと、私は音楽センスがないといいますが、ちょうど高校卒業する頃にカラオケボックスなるものが流行し始めて、私も友人らと行く事になるの

ですが、行くたびに笑われておりました。カラオケボックスが出来たのは人前で歌う事はほとんどなく、自分がこんな音痴だと気づかされたのがカラオケボックスでした。そんなものですから、いざ梅花を始めみて改めてセンスがないなあと思ひ知らされました。ただ、浅田さんからは、音痴は関係ないと言われたのが唯一の救いで、そこで音痴だと難しい等のキビシイお言葉いただければ、いま私は梅花を続けていないかもしれせん。なんだかんだと、法具も揃え講習会も数を重ねていたある日、またまた浅田さんから、宗務庁の師範養成所行ってみないか？と言われ、はずかしながらそれがどういうものなのかまったく分からず、やはり前述の通り特段忙しくもなかったのと、元来楽道家というのが功を奏して？行きますと返事しました。その時、もうひとかた推薦された方がおったのですが、年齢制限ギリギリということで行く事になり申し訳なかつたです。本庁の師範養成所に行く前に情報収集して心の準備をしておりましたが、実際に行ってみると良くも悪くも新鮮なことはかりでした。一期目は訳も分からずついていった。二期目は訳も分からずこなし

講師陣の中には、秋田の佐藤俊晃先生もおり、授業の中で「秋田は養成所あがるとすぐに師範会の講師をしなくてはいけないことになってます。〇からね鷹照さん」などとプレッシャーをかけられながらも認定会で合格し、こうして頼りない四級師範が誕生してしまいました。

途中自分自身の晋山という大きな行事と、宗務所の人権擁護推進主事に任命されるなども重なり大変な時期もありましたが、無事に終えて認定されて感謝しております。今は、法事や葬式などで、お唱えするようになりました。読経や法話とまた違った檀信徒の方々の反応を見たり聞いたりすると、始めて良かったと思います。また、円通寺さんより大蔵寺さんと宝円寺さんの梅花講を引き継いで見させていたただいておりますが、必死に予習しながら、どちらかというと、講員さんについて行っているというのが現状でしょうか。師範会の講師は今年免除していただいております。と、独り言を言いながら、自己紹介のようになってしまいましたが、檀信徒のためにと思ひこれからもっと梅花に取り組んでまいりたいと思ひます。

梅花行事ご案内

■ 禅センター梅花講習

【檀信徒講習会】（午前十時半～午後三時）

九月九日（金） 課題曲 新亡精霊供養御和讃

十月十三日（金） 課題曲 妙鐘
まごころに生きる
秋田県梅花講の歌

十一月十一日（金） 課題曲 溪声
花供養御和讃

十二月九日（金） 課題曲 供華
成道御和讃

二月十日（金） 課題曲 明星
涅槃御和讃

三月九日（金） 課題曲 不滅
二祖 国師讃仰御和讃
永光

※今回も講習曲が目白押しです。課題曲を確認してお気軽にご参加下さい。初心者、上級者の二会場にて。受講は無料です。

■ 檀信徒講習員一泊研修

◎ 県北地区

日時 十一月中に予定。

会場 北秋田市内の寺院にて

諸々計画中とのこと。

※会費、詳細、日程等は決まり次第各講長さんを通じてご案内致します。

◎ 中央・県南地区

※日程、会場は今のところ未定です。

■ 中央・県南地区奉詠大会

日時 九月四日（日）

会場 由利本荘市「西目シーガル」

※この号が出る頃には終了してしまいかもかもしれません。次号で紹介いたします。

■ 宗務所に梅花流師範養成所開設

今年度より秋田県宗務所梅花部では「梅花流師範養成所」を開設し、県内各教区より希望者を集め、新しい師範を育てております。梅花をもっともつと全県に、県内のまだ伝わっていない地域まで若き青年僧侶に託して、もつともつと「供養と祈りの梅花」を広げたい。こうと考えております。その内、皆様の近くのお寺で講習会が開催されるのもそう遠くないでしょう。ご期待ください。

検定会のお知らせ

～23年度課題曲決定～

平成23年度の秋田県の梅花流検定会を下記の日程にて開催いたします。自身のレベルアップと練習の成果を発揮する良い機会ですので、ぜひ受検下さいませようご案内いたします。

今年の検定課題曲の中から決定いたしました。苦手な課題曲がありましたら師範先生に特訓を受けて検定に臨んで下さい。「励みとやる気があれば、かならず道は開ける」です。尚、見台、イス、机をご使用の方は申し込み時に記入連絡にこと。

【日程・受付 9時 / 開講式 9時30分 / 検定開始 10時】

■ 県北検定 9月22日(木) / 会場「北秋くらぶ」
大館市幸町15-6 ☎0186-42-2033

■ 中央・三級検定 10月31日(月) / 会場「さとみ温泉」
秋田市添川 ☎0188-33-7171

● 詠範（寺族）検定課題曲

- 補 教 正法・修証義・紫雲（高祖）より2曲。
- 詠 範 補 浄心・梅花（太祖1）・入寂（高祖）・誕生（高祖）より2曲（※和讃は立行）
- 五級詠範 溪声（永平2）・慈光・地藏・無常より2曲（※和讃は立行）
- 四級詠範 花祭・歓喜（第2）・明星・不滅・高嶺・追善より2曲出題（※和讃は立行）
- 三級詠範 紫雲（高祖）・梅花（太祖1）・慈光・廓然・御授戒・同行・慶祝より3曲出題
（※和讃は立行・分節詠唱あり）

● 檀信徒検定課題曲

- 教 導 三宝・正法
- 権正教導 聖号・修証義
- 正 教 導 浄心・紫雲（高祖）
- 権中教導 梅花（高祖1・太祖1）・誕生（高祖）より2曲（和讃は立行）
- 中 教 導 溪声（永平寺2・総持寺1）・菩提（高祖）より2曲（和讃は立行）
- 権大教導 入寂（高祖）・法灯（太祖）・無常・月影より2曲出題（※和讃は立行）
- 大 教 導 歓喜（第2）・成道・涅槃・観音・慈光・慈念・妙鐘より3曲出題（※和讃は立行）
- 三級教範 紫雲（釈迦）・梅花（高祖2）・溪声（永平寺1）・廓然・讃仰（太祖）・法灯（高祖）
御授戒・同行より3曲出題（※和讃は立行・分節詠唱あり）

※中教導合格にて水色の房に変わる。